

地域で安心して暮らすために本当に必要なことは？

まちぽっと セミナー

2015年にインクルファンドの助成を受けた「オープンリビング けやきの見える家」(杉並区西荻窪)のその後の活動をお伝えします。

助成事業では、地域包括支援センターと共同で地域福祉ニーズ調査を行いました。この調査は「地域で生きていく」ということを意識するきっかけとなったこと、なによりも「この地域の環境や暮らしが大好きで、これからも暮らし続けたい」という想いと、煩わしさもあるが、高齢になるにしたがって「地域やご近所とのつながりが大切」と多くの方が考えていることがわかりました。調査後はこの思いを実現させるために次の活動に着手しています。

2016年度には、杉並区社会福祉協議会の参加も得て、「ご近所支えあいプロジェクト」が発足。住民流福祉総合研究所の木原孝久さんを講師に連続講座「あなたもご近所つながり上手になろう～もっと地域のつながりを豊かにするために～」を開催し、眼からうるこ、だったようです。つまり、「私のことは放っておいて」「人のことは放っておこう」「当たり障りのないお付き合い」では、「たすけあい」「ささえあい」などはできない、ということ突き付けられたということです。

地域包括支援センターのSセンター長は、介護の専門職としてこれまでは困っている人を制度やサービスにつなぐのが役割だと思いがちでしたが、けやきの見える家サロンで、介護サービス利用中に



サロンでの朗読劇

は見られない生き生きとした利用者の姿を垣間見ることで、その人の生活への思い(QOL・クオリティオブライフ)に気付かされたといえます。

介護人材不足により制度やお金があってもサービスが買えない時代がすぐにやってくる、ささえあい、たすけあわなければ多死社会に対応できないことを考えれば、このプロジェクトの活動は時代への挑戦でもある。今後地域包括ケア構築に対し、専門職としてその人らしい地域生活を支援(サポート)する視点で課題に対応し、地域住民同士が参加、協力し合う土壌を広げたいと発言されました。

「けやきの見える家」自体が住民同士の関係性をつくる受け皿のひとつとして、潜在的な要支援者と専門職を含めた地域資源とをつなぐ役割を果たしていますが、さらにこの調査をステップとしてたすけあい、ささえあ地域づくりを視野に活動されているところに底力を感じました。

インクルファンドの助成金を得られたことにより、専門家による集計と分析が可能となり、調査結果に対する信頼度が高まったと評価していただき、組合員の皆さんが寄付して下さった意思あるお金がこのように形で市民発の地域包括ケアを実体化する一つの試みとして生かされていることを大変うれしく思います。

(認定NPOまちぽっと理事長/
インクルーシブ事業連合運営委員 佐々木貴子)

第1回生活クラブ福祉・たすけあい研究交流集会

生活クラブ生協では「福祉・たすけあい8原則*」のもと、福祉の機能づくりを推進。グループ全体の総事業所数は824ヶ所、利用登録者6万5800人、働くメンバーは1万4800人で、総事業高は172億円となっています(2015年度)。

*8原則:多様性/尊厳の尊重/参加型社会/働きがいのある人間らしい仕事/居場所づくり/役割づくり/子育て支援/介護支援/社会的孤立への支援

生活クラブ共済連及び生活クラブ安心システム連合では3月27日、初めての研究交流集会を開催。「おたがいさま運動」を広げ「ささえあい、たすけあい、地域だんらんまちづくり」をすすめる愛知県・南医療生活協同組合地域ささえあいセンターの大野京子本部長(写真)の基調講演に、272名の参加者が聞き入りました。



南医療生協の設立は1961年。その2年前、5千人の命を奪った伊勢湾台風がきっかけでした。「自分たちの診療所を」という思いは、今や県内に2病院、10診療所(うち3歯科)、他に訪問看護5ヶ所、介護施設35ヶ所、住宅3ヶ所、さらに病児保育、健診センター、助産所、ジム、移送サービスなど63の事業所ネットワークを持つに至り、組合員は8万3千人、出資金総額約31億円、事業収入は106億円に上っています。



南医療生協の設立は1961年。その2年前、5千人の命を奪った伊勢湾台風

大野さんはこの間、組合員が主人公になるための組合員自治の基本にこだわってきました。組合員活動の経費は法人から拠出せず協賛金を集める、病院の拡大も増資で乗りきるなど、「生協が」ではなく「生協で」自分たちの思いを実現してきました。高齢者の独居は3割となり、もはや家族だんらんではなく、地域だんらんが必要とされる中、「まさに協同組合が試されている」といいます。

組合員は12ブロック、89支部に分かれ、機関紙配布も「安否確認のつながりの単位」と考え、4万6千軒に対し2900人が手配り。支部のある地域では90%、全県でも80%をカバーしています。さらに、1支部1福祉運動の「いっぶく運動」、朝の「タオル体操」、子育て支援「のびすく運動」などの活動も展開。スーパー等まちなかでも行う「無料健康チェック」は外国人住民にも対応しています。

「医療と暮らしをつなぐと医療の品質が高まる」ことから、治すだけでなく、治し、暮らしを支える医療・介護づくりにチャレンジ。良い医療・介護の指標として①社会的な水準の確保②不必要なことは行わない③納得と同意に基づく④地域の「ささえあい・たすけあいのネットワーク」を上げ、④のグッズとして「おたがいさまシート」でのマッチングが広がっています。「医師や看護師など専門家との距離を縮めるのも大事なこと」とも。

協同の力=地域力を発揮、暮らしを支える「生協文化」を各地で広げていきましょう。

(インクルーシブ事業連合事務局 稲宮須美)

インフォメーション

アビリティクラブたすけあい(ACT)設立25周年 『ACT25周年フォーラム』



★ACTは25歳になりました！記念フォーラムを開催します！

日時:9月16日(土)14:00~

会場:Coconeri(ココネリ) 練馬区練馬1-17-1/西武池袋線練馬駅北口徒歩1分

主催:NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)



【お申込み・お問合せ】NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)担当:大谷・相川

TEL:03-5302-0393 FAX03-5302-0394

お詫びと訂正

インクルーシブ通信VOL.19「生活クラブの子育て支援事業の実践」の記事において、ぼむ保谷とぼむ徳丸の写真キャプションおよび本文の記述が入れ違っていました。正しい記述はこちらです。関係者各位にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。



ぼむ・徳丸
(板橋区・小規模
保育所・対象
0~2歳)



ぼむ・保谷
(西東京市・東京都
認証保育所・対象
0~2歳)

ぼむ・徳丸の発表テーマは『律動』、『自由表現』と『集団あそび』、『リトミック』の原型からなる「リズム遊び」の取り組みについて、ぼむ・保谷からは、生活クラブならではの食の専門性を生かした「食育活動」について発表されました。

これからの時代、自己責任だけで乗りきれますか？ たすけあい・支えあいのアソシエーション「(仮)チームたすけあい」をつくろう！

神奈川県的生活クラブ運動グループが参加する「参加型福祉研究センター」主催の「2017参加型福祉まちづくりフォーラム」が3/22に行われました。



地域包括ケアシステムの構築が課題となっている今、参加型福祉研究所のもとに「オルタナティブ地域包括ケアシステム研究会」が設置され、市民が描くオルタナティブな地域包括ケアシステムについて検討。3エリアを設定し、まちの現状・生活福祉のニーズ・拠点や活動主体の必要性などを調査して「地域連携ビジョン」策定シュミレーションを行いました。

今後はおおぜいの生活者・市民に呼びかけ、策定を促すと同時に、たすけあい・支えあいによる福祉の担い手を広げる「(仮)チームたすけあい」をスタートさせよう、という座長の中村久子さん(写真)の基調講

演に始まり、「(株)ぐるんとびー」と「NPO法人ワークスわくわく」の活動事例報告や、策定シュミレーションを行った3エリアの報告がありました。

高齢化率70%というUR団地で小規模多機能型居宅介護事業を行っている「ぐるんとびー駒寄」は「人の生活はケアプランで縛れない。やりたいことがやれると人は元気になる。」と、団地で楽しく生きていくための拠点を目指しています。ワークスわくわくは「地域の課題の解決に必要なしくみがなかったら作っちゃおう！」と困難事例から「逃げない・投げない精神」で、次々必要なしくみをつくってきました。

貧困・格差の拡大や、年代を問わない人々の孤立化という社会問題に対し、誰かにお任せするのではなく市民参加によるたすけあい・支えあいのしくみを主体的につくり、実践してきた私たちの取り組みをさらに広げていくことが今こそ求められています。

(インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子)